

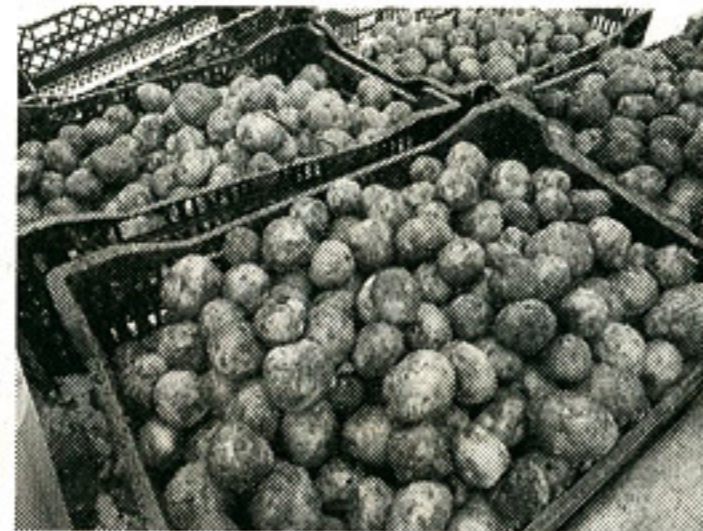
ASA街だより

開拓者の知恵と苦勞実感
=東川で越冬じゃがいも掘り=



全国各地で体験型イベントが流行する中、明治期の北海道で生まれた生活の知恵を学べるイベント「越冬じゃがいも掘り体験」が3月22日、東川町進化台のアグリテック体験農園で行われ、就学前の子どもを含む約20人の参加者が集まり、秋の収穫期に土中に埋められたいもを協力して掘り起こした(写真右)。

も体験したことのない「寒さ」だった。秋に収穫した農作物を、次の収穫まで凍らせず保存することが家族が生きるために必要で、秋から初冬には漬物づくりと野菜の乾燥、そして土中への保存に家族全員が駆り出された。冬はそれを少しずつ食べつなぎ、正月を祝い、雪どけを待ったのだ。



春分の日翌日にあたるこの日、東川町は猛烈な吹雪に見舞われた。こんな日は北海道の厳しい冬を耐え抜いた先人たちの労苦を思わずにはいられない。開拓の頃、全国から北海道に移住した人々が最初に直面したのが、周囲の誰

この日は「きたあかり」「男爵」合わせて200kgのじゃがいもを掘り出した(写真左)。雪をかき分け、深さ30cmの土をよけて現れたいもは熟成して糖度が増し、美味。体験会終了後はみんな塩ゆでしたいもを楽しく味わった。

主催者のアグリテック社は東川町で四季を通じ、各種の体験型観光をコーディネートしている。問い合わせは「ひがしかわDE感動体験事務局」(電話0166・82・0800)まで。

最初に直面したのが、周囲の誰

この日は「きたあかり」「男爵」合わせて200kgのじゃがいもを掘り出した(写真左)。雪をかき分け、深さ30cmの土をよけて現れたいもは熟成して糖度が増し、美味。体験会終了後はみんな塩ゆでしたいもを楽しく味わった。

主催者のアグリテック社は東川町で四季を通じ、各種の体験型観光をコーディネートしている。問い合わせは「ひがしかわDE感動体験事務局」(電話0166・82・0800)まで。